

第3回学術集会 優秀演題賞 受賞者紹介



本田 浩一 昭和大学医学部内科学講座腎臓内科学部門

「血液透析患者における BMI と栄養障害および栄養障害関連因子との関係」

最優秀演題賞（医師部門）を頂きましたこと、誠にありがとうございました。慢性腎臓病患者に対する運動療法は、その有効性が期待される一方で、腎機能障害自体の悪化や特徴的な栄養障害を呈することなどの理由から、適正な処方できない問題点があります。そのような懸念を払拭できるように、特に慢性腎臓病患者に対する栄養状態を加味した適切な運動療法処方とその評価方法についての臨床的な検討を続ける所存でおります。



人見 浩史 香川大学医学部薬理学

「ヒト iPS 細胞および ES 細胞を用いたエリスロポエチン産生細胞分化誘導法の確立」

優秀演題賞（医師部門）を頂き、ありがとうございました。まだまだ拙い研究内容ではありますが、この賞を糧とし、iPS 細胞の臨床応用を目標に、今後も研究に邁進する所存であります。本学会で受けたご指摘に対しまして深く感謝するとともに、新しく興味深い知見が得られ、皆さまに発表する機会を頂けるよう努力いたします。この度は本当にありがとうございました。



三木 敦史 自治医科大学附属病院腎臓内科

「かかりつけ医師自身の運動習慣は慢性腎臓病患者への運動指導に影響する」

この度は優秀演題賞（医師部門）をいただき、誠にありがとうございます。荣誉ある賞に受賞させていただいたことに恥じぬよう精進してまいりたいと思います。今後も腎疾患・リハビリテーションに関して診療・研究を継続し、診療に役立てることができるよう検討を重ねていきたいと思っています。



平木 幸治 聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部

「保存期慢性腎臓病患者の膝伸筋力と腎機能の関係 歩行自立に必要な筋力閾値との検討」

最優秀演題賞（メディカル・スタッフ部門）という名誉ある賞を頂き、どうもありがとうございました。透析患者と異なり、保存期 CKD 患者の運動機能や運動療法に関するエビデンスは少ないのが現状です。私達はその保存期の研究を行っており、CKD 患者の運動機能は透析導入前からすでに低下していることを報告し、早期から運動介入する必要性を検討しています。今後は介入研究を行い、腎臓リハビリ分野に寄与できる発表を行っていききたいと思います。



松沢 良太 北里大学大学院医療系研究科、さがみ循環器クリニック

「身体活動量の低下は血液透析患者の脳・心血管疾患の発症を原因とする入院リスクを増加させる」

優秀演題賞（メディカル・スタッフ部門）を賜り、誠に光栄に存じます。血液透析患者を長期にわたり観察し、日常の身体不活動が脳・心血管疾患発症のリスクを増加させることを発表しました。この結果は、リハビリテーション医療の主翼をなす運動療法（指導）を、血液透析患者に対する疾患管理の一つと位置づける根拠につながると考えております。今後は、血液透析患者に対する運動療法の効果を明確にできるよう、さらに研究を進めていきたいと存じます。



田淵 牧子 医療法人 創和会 リハビリテーション部

「回復期リハビリテーション病棟対象の透析患者に関する現状調査」

優秀演題賞（メディカル・スタッフ部門）に選出して頂きありがとうございました。10年以上透析患者に携わる中で、リハビリの必要性は常に感じていました。このように本学会が開催されるようになり、その重要性が明らかになっていくことを大変嬉しく、更なる発展に期待を高めています。今後も透析患者はもちろん CKD 患者へ予防的観点を含めた運動療法を勧めると共に、QOL 向上の一助となるべく日々精進して参りたいと思います。